

## 【三戸町教育委員会】

## 校務DX計画

三戸町ではこれまでに校務DXの推進として、校務支援システムやグループウェア等の導入を行ってきた。しかし、それぞれのソフトウェアやシステムが独立して運用されており、データ、アカウント連携がされていないなど課題も多く存在している。また、令和5年に文部科学省から発表された「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」(以下「チェックリスト」という)に基づく自己点検の結果、三戸町においても校務DXを進める上での課題が多々確認されるなど、校務DXによる教職員の負担軽減や利便性向上が充分に行われていない状況である。そのため、三戸町では校務DXを推進するうえでの課題を改善するために、以下の点について推進していく。

### 1. 慣行や制度によるFAXや押印の見直しとペーパーレス化の推進

チェックリストの自己点検の結果では、学校が外部等のやりとりに押印が必要な書類を使用しているとの回答が87.1%、業務にFAXを使用しているとの回答が95.9%と割合が高い。このことについて文部科学省はFAXと押印が必要な書類のやりとりがクラウドを活用した校務DXを大きく阻害しているとして、令和7年度に原則として学校のFAX・押印の廃止を目標に掲げている。三戸町でも学校と教育委員会の間などでFAXでのやりとりや、申請書への押印が必要として紙の書類でのやりとりを行っているなど、FAXや押印が業務で使用されている現状がある。そのため、慣行や制度、申請書の様式の見直し、学校とのやりとりをメールやクラウドツールによって代用するなどして不必要なFAXや押印の見直しを推進していく。また、これと並行して資料や書類のやりとりを同じくメールやクラウドツールに置き換えるなどしてペーパーレス化の推進も行っていく。

### 2. これからの校務支援システムについて

三戸町では現在、オンプレ型(学校内にサーバーを設置して運用)の校務支援システムを三戸小中学校に導入している。しかし、文部科学省では教務系、保健系、学籍系、学校事務系の機能を有した統合型校務支援システムのクラウド上での運用を推奨しており、加えて教育データの連携、クラウドツールの活用やネットワーク統合を前提としてパブリッククラウド上で運用される次世代型校務支援システムの検討を行うことが望ましいとされており、校務支援システムに限れば大きく整備等が遅れているのが現状である。そのため、令和7年度にクラウド上で運用する統合型校務支援システムの導入を行い、その後の次回更改に向けてグループウェア等のクラウド化や教育データや各種ツールとの連携について検討を行っていく。

### 3. 次世代校務DXにあわせたルール策定の策定

チェックリストでは、教育に関わる各種公文書等のデジタル化に関わる規定が定められることによって、適切な文書管理とデジタル化の推進が図られるとしている。また、教育現場特有の事情を踏まえた情報資産の守り方を定めた教育情報セキュリティポリシーを定め、それに基づくクラウド活用を前提としたセキュリティレベルが確保され、教育DXの基盤構築に繋がるとしてDXのためのルール作りの重要性に言及している。三戸町ではどちらも未整備な状況にありDX化にあわせたルール整備が進んでいないのが現状である。そのため、三戸町では教育情報セキュリティポリシーを中心として教育のデジタル化のルール作りを推進していく。教育情報セキュリティポリシーであれば、文部科学省が発表している「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」(令和6年1月)などを参考にしつつ、教育現場の声などを取り入れたルール作りを進めていく。